

第2回 千代田区文化芸術プラン（第四次）策定検討会議議事録（要約）

- 日 時：2019年7月31日（水）10：00～12：00
- 会 場：千代田区役所 4階B会議室
- 出席状況：出席委員名16名、欠席委員4名
- 千代田区：地域振興部長、地域振興部文化・スポーツ担当部長、
政策経営部企画課長、環境まちづくり部景観・都市計画課長、
子ども部子ども総務課長
- 事務局：地域振興部文化振興課3名、受託支援業者2名
- 議 題：（1）第三次プランについて
（2）委員アンケート①のまとめ
（3）関係者ヒアリングのまとめ
（4）計画策定で検討するポイント

（議事要旨）

1. 開 会
2. 策定スケジュールについて

3. 議 題

- （1）第三次プランの振り返り
＜事務局より資料2説明＞

- （2）委員アンケート①のまとめ
＜事務局より資料3説明＞

委 員：委員アンケート1枚目の「千代田区の文化的特徴について」の「江戸しぐさ」は学術的に検証されていないというところで、第三期プランの概要版を専門家に見せたところ、ある特定の民間団体がイメージを集めて作り出した、提唱し始めたものであるということだ。例えば「傘かしげ」も、江戸時代に本当にあったか分かってなく、庶民が番傘を使ってなかったという指摘もあり、時代考証のされていない時代劇からとったようなところがあるということだった。法政大学の田中総長が「江戸しぐさ」は全くの作り事で認定するようなことはしてはいけないと明言されている。特に千代田区の大学の先生もおっしゃっているということも合わせて、あんまりはっきりしないものは、区の取組みとして取り上げるべき内容ではない。

座 長：実は最初に作った時は、文化芸術とは何かという議論があったときに、単なる絵や音楽などを見たり、聞いたりすることが文化芸術だという範囲を超えて、気遣いやおもてなしなどを含め、日常的に文化に触れて、人間性からレベルア

ップして、どこにいても文化と芸術があること、皆がよりよい生活を送れることというイメージが議論であった。

イメージとしては、コミュニティがあって、助け合いがあって、そこに人の関わりがあって、ノスタルジック的なものもあり、それを1つの言葉で整理するのに「江戸のしぐさ」が使われたところがある。何か他の表現で置き換えるなり、議論いただく中で検討していけばよいと思う。助け合いの精神や寛容など、背景にある考え方は踏襲しつつ、江戸しぐさに変わるものを考えられるとよい。

委員：「江戸しぐさ」というのは商業商品として作り上げた言葉だと思うので、そのような言葉をプランに用いるのは適当ではない。

委員：この話はかなり前から、具体的な「江戸しぐさ」の歴史的な検証は出来ないという話はあるが、コンセプトとしてこの文芸プランの中に活かすことはあるだろうということ、皆さんの共通理解だと確認するとよいと思う。おっしゃる通り「江戸しぐさ」という言葉に対する批判があるが、その幅広いコンセプトも否定しているのかといわれると、「助け合い」や「情けは人の為ならず」のような考え方は、この文芸プランの中に引き続き入れていくこととし、どのように入れるかは検討していけるとよい。

座長：コンセプトを取り入れながら、この言葉を使わずに表現できればと思う。ここを外すと全体が成り立たなくなるので、知恵を出して、議論の中でまた整理していきたい。区が人の余裕や優しさなど、そういうものを重視していることを示し、区民とどう関わっていくのかを分かりやすい表現にできるとよい。

委員：ホール建設の要望が挙げられているが、ハードをつくることは難しいのではないか。区内には民間の施設もいくつかあるが、それらを区民が利用することは難しいのか。

事務局：区ではその収容規模のホールは持っていないため、民間施設をお借りしている。他の地域に比べて、区内には多くの民間の文化芸術の施設が豊富にあるので、利用できる環境にはあると考えている。

委員：他の都心区でもホールを保有しているところはあり、区民の登録団体は非常に安価に利用することができる。千代田区は民間のものはたくさんあるが、安く利用できるホールがほとんどない。アマチュアで活動する人には民間施設はハードルが高いので、他区のホールを借りることになる。

委員：千代田公会堂は現在閉館しているが建物は残っているため、適切に補修して利用を再開すればよいのではないか。

委員：既存の民間のものが豊富にあるため、それをどう活用するかに尽きると思っている。例えば、既存の文化芸術活動に対する支援が十分知られていなかったりするため、支援を拡充して行ったりという方向性もある。区が自前で保有するという考え方は難しい昨今だが、民間施設や大学を含め、もっと活用するため

の方策を、費用の面や活動の支援も含めて、議論をしていくことが大事だ。

委員：今後も区としてホール・公会堂をつくるつもりはないのか。

委員：区が施設を保有することの最大のメリットは、利用料金の手軽さや、区民がある程度、優先的に、かつ比較的自由に使えるなど、使い勝手の良さだと思う。区として自前で作っていくというのはなかなか正直考えにくいので、それらのメリットを民間施設でも受けられるようにすることを考えるのが、一番現実的だと思う。

座長：財源の問題でいうと、自治体がホールを自前で持つためには、東京都くらいの人口規模がないと経営が成り立たない。例えば、世田谷区は人口が90万に対し、千代田区は夜間人口約6万なので、人口規模を考えるとホールを保有することは正直難しいと思う。

委員：補足すると、千代田公会堂は区が一部を区分所有しているもので、建て替えについては別のオーナーとの調整が必要になる。直近で建て替えの予定があるとは聞いていなく、十数年前に耐震をしたということだが、中期的に建て替えの話があるかどうか具体的にやりにくいのが現実である。区の方が建て替えて欲しいと言えるような区分所有の割合ではない。

(3) 関係者ヒアリングのまとめ

<事務局より資料4説明>

委員：資料にある「千代田区には様々な積層があるため、埋もれてしまっている文化資源がある。」ということは、どういう意味か。

委員：千代田区には歴史のレイヤーがあるということで、他の地方なんかと比べてもゆかりの人物などが多く存在しているが、街を歩いていてもよく見えなかったりするという点をヒアリングで説明した。

座長：マップ等で情報発信をする取組みは今までもあったが、それをもう少し工夫して、充実させていこうということである。他には、「場の提供」や「若い世代」についてなど、今回取り込むべき材料がだいぶ提示されていると思う。

(4) 計画策定で検討するポイント

<事務局より資料5説明>

委員：1番が「子どもから大人まで」、2番が「千代田区の文化遺産の活用」、3番が「文化芸術に関わる人材の育成」という3つの視点は細かすぎると思う。もっと大きく構えて、たとえば1番が「魅力ある千代田づくり」、2番目が「参加する千代田」、3番目が「発信する千代田」というように、大括りにして、その中で書いていった方がよいと思う。「発信する千代田」の中には、世界遺産を大きく打ち出した方がよいと思う。皇居の中や周辺の江戸時代の遺産など、他の世

界遺産と比べても立派な世界遺産の宝庫である。また、居住者としての区民、働いている区民、訪れる区民など、それぞれの区民にアピールするために、もっと分かりやすく、魅力のある計画にするべきだ。

委員：目線として、区民や住民にとって、1番目の「文化芸術に触れる機会の創出」があると、何がメリットなのかが、分かりづらい。「文化資源が活用される」とどんなよいことがあるのか、どういう生活ができるのか、ということがまったく見えない。そういった最初のスローガンというか大枠が、住民の生活と遠いからだと思う。区民に何がもたらされるのかが示された上で、区が何をするのかということが示されるべきだ。

座長：今日の議論ではプランに盛り込むべき内容をたくさん挙げてもらったり、不必要なものを指摘していただいて、あとでまた整理するとき、柱立ては考えた方がよいと思う。また、意見でいただいた第3の住民についても入れていったらよいと感じている。「創る」、「保存し伝える」と分けることになっているが、この辺も議論の中で細かいフレーズを出していただいたらよい。

委員：これまでやってきた事業は継続していった方がよいと思う。この3つの柱はそのまま内容を決めていく。そして、今までやってきたものを継続し、発展させていくが、区民がどこに利点があるが分からないということは事実であるため、「魅力ある千代田」などの別の柱に取って代わるのではなく、視野を入れながら広報的にもう少し分かりやすくまとめて見せていく努力を今回やるべきではないか。

委員：「魅力ある千代田区づくり」というのは、世界中から千代田区に訪れてきてほしいわけである。それを望むのであれば、魅力のある千代田区をみんなでどうやってつくるのか、また発信するのかということプランとして表現するべきだ。「子どもから大人まで幅広い世代が文化芸術に触れる機会の創出」などではなく、魅力ある千代田区をつくること、千代田からは発信すること、楽しい千代田区であることを伝えていく方が分かりやすい。一部の関係者だけのプランではなくて、一般の区民に広く発信しないとイケない。分かりやすさは発信力におけるポイントだと思う。個々の細かいところはすごくよいことがたくさん書いてあるが、括りをきちんとアピールするようにしっかりした方がいいと思う。

委員：第四次プランでも、重点目標の3つの柱については継続していきたいと考えている。資料5で示した3つの見出しは柱ではなく、それに紐づく内容だと考えていただき、それにぶら下がってくるキーワードが恐らく第三次から第四次の間で変わってきているので、そちらを中心に見ていただければと思う。座長からも少し触れていただいたが、分類に関しても「保存し伝える」や「創る」などの分類に関しても整理はしたいと思う。

委員：議論の枠組みとして、現状で実施可能なものという中で議論するのか、先ほど

の日比谷公会堂の活用などの話も視野に入れながら、多少、夢も含めて議論をするのか。たとえば区の周遊バスのルートを変えて文化資源を巡れるようにする、そういったような意見もここで提起してよいのか。

座長：基本的にこのプランは文化芸術条例の下に策定されているものだと思うので、決められた枠組みがあるとは思いますが、今のようなご意見は、区民の参加しやすい機会づくりの中でアクセスの便も含めて考えて行けると思う。

委員：都市計画においても、まちづくりの中で地域の界索性とか文化性も大事なので、そこを楽しむために、まちづくり、都市計画とか都市づくり政策の中で、どんな取組みしていったらいいのか、ということを考えているところである。界索性を残すとか、界限と界限の間の円滑なシームレスな移動環境などのようなアプローチの議論は、まちづくりではできると思う。しかし、この文芸プランの中で、そういうのを射程にするかどうかというのは、難しいところがあると思う。ただ、3つの視点の中で、もし欠けているとすれば「楽しむ」という要素が柱としてあるのかもしれないと思った。楽しむというのは、住んでいる人も訪れる人も楽しむということであり、文化を楽しむ。文化を楽しむにあたって、楽しみやすい環境を整備するというのは、どっちのアプローチから考えるか。まちづくりや都市計画で考えるか、文芸プランで考えるのか、色々指摘いただければ、まちづくりの方で検討することもできるかと思うので、参考にさせていただきたい。

委員：文言について、プランでは「シビックプライド」など一般には馴染のない言葉は用いない方がよいと思う。

委員：最近「シビックプライド」は結構言われている。確かに世間一般には、馴染みはないかもしれないが、個人的には非常に「シビックプライド」は大事な視点だと思っている。「自分たちのまちを愛する」ようなものを盛りたてる言葉は必要だと思うので「シビックプライド」という言葉はどんどん定着させていきたいと思っており、区としても広めていければよいと思う。

委員：新しい言葉は一人歩きするところがあるので危険である。「シビックプライド」という言葉だけでは、思いも伝わり切らないので言葉を尽くした方がよいと思う。

委員：「シビックプライド」というのは都市計画、まちづくりの分野から発祥し、比較的展開されつつあり、学術面にも幾つか概念整理がなされつつある。言葉としては、一般人にとってはまだ身近になっていないかもしれませんが、これからの文化芸術を含めたまちづくりを展開する上では、明確なアプローチのもとに施策的に展開しやすい概念であると考えている。その辺をしっかりと踏まえて、積極的に活用していきたいと考えている。千代田区だけが使っているわけではなく、多くの自治体も使い始めている言葉であるため、市民との断絶を埋める

ような形で努力をしていきたいと考えているところである。

委員：言葉は、作る人の意図を受け取る側が理解するのにかかっている。分かりづら
い日本語は避けた方がよいと思う。

委員：先ほど話題に出た「江戸しぐさ」にまつわる取組みについては「育てる」に該
当させてはどうか。「育てる」は現在、文化芸術に偏っているので、文化芸術に
おさまらない生活様式も「育てる」という趣旨でよいと思う。

委員：「江戸しぐさ」という言葉そのものに問題があると認識している。

委員：「江戸しぐさ」が、歴史文化に入っているのは無理があると思う。言葉を使うか
どうかは別として、背景にあるコンセプトを入れるとしたら「保存し伝える」
ではなく、「育てる」に分類した方がよいと思う。

座長：以前も議論し最終的に「保存し伝える」になったが、もともとは「育てる」に
分類していた。表現や内容の取り入れ方は考えていきたいと思う。

委員：3つの柱が繋がって、地理的に偏りなく万遍なく取組まれていることが望まし
いとする、地図にマッピングすれば何が不足しているのかが可視化されるの
ではないか。やろうとしていること、やったことを地域レベルで地図化できる
のではないか。千代田区は地理的に特徴があるので、検討してみてもどうか。

座長：ここ数年で変化してきているのは、やはり外国人である。色んな委員会で、多
様性とか共生という話が出てくることが多い。千代田区では、外国人の増加に
関する取組みはないか。文化の取組みと結びつけられるとよいと思う。また、
千代田の場合は珍しく夜間人口が増えており、千代田区はもともと人数が少な
いので、伸び率が大きい。これがどう影響するか。また、若い世代が移り住ん
でいることも特徴である。

委員：千代田区で外国人の観光客がよく訪れる場所はどこか。

委員：秋葉原や丸の内である。また神保町も最近インバウンド向けのリーズナブルな
ホテルが次々できているため、増えている。

座長：観光協会では何か取組みはないか。

委員：埋もれている観光資源には、やはりそのポイントを回ってもらうためのストー
リーが必要なので、色々模範コースを提示している。必ずしもコースを回らな
くても、見ないで回っていただいてもよいが、そういうコースは設定してい
きたい。

委員：個人で観光する人にとっては、幾つか推奨コースを作っただけだとありが
たい。そういうのが少しでもあると、うまく回りやすいのであるとよいと思う。

委員：検討するポイントの方には入っていないが、資料2の2枚目で、「次期プランに
おいて取組むべきこと」とある下の方の、「桜を活用する」について補足したい。
お堀ののり面にある桜は、結構寿命を迎えている。お堀ののり面とは、それ自
体が江戸城の史跡であり、寿命を迎えたら、全部なくなってしまうことも議論

になると思う。旧江戸城の面影を残していくのであれば、千代田区を代表する文化資産として、お城ののり面は環境省の所管になるため、中央官庁と区で調整する必要があると思う。文化芸術の観点から桜をどのように捉えるべきか、ぜひ議論をしていただきたい。

事務局：歩道にある老朽化した木は区が植え替えできるが、お堀ののり面は区でできない。環境省は自分の予算ではおそらく桜を植えないので今後検討すべきこととしたい。

4. その他

5. 事務連絡

事務局：今回は計画の構成案として骨子を示し、施策や重点プロジェクトについてご意見をいただきたい。9月に開催を予定している。

以上